



日本GAP

No. 8

仙台支部報

IGAP-JAPAN SENDAI INFORMATION

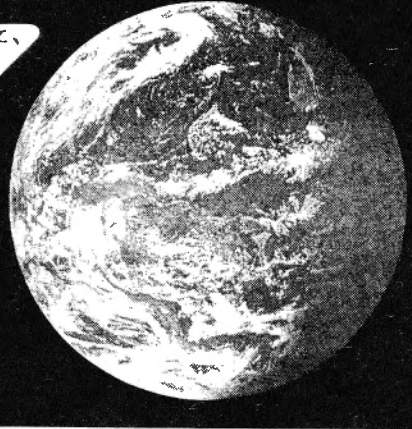
頒価 無料/送料60円(切手可)

○編集人：安藤澄雄
○発行人：笠原弘可(仙台支部代表)
申込先 〒980 仙台市東10番丁1
国鉄アパート1-18

聖なる地球

ジョージ・アダムスキー
久保田八郎訳

この記事は1965年4月10日(アダムスキーが死去する13日前)に、
米ミシガン州デトロイトで行われた、アダムスキー最後の講演の一
部である。 今われわれは地球でどう生きて行けばよいのか ——



一人の青年が私に語りました。周囲のあらゆる物が、あらゆる「私は地球を出て金星または他の惑星へ行きたい」と。そうですね。そう言う人が沢山います。しかし地球に住めないというよなことで、どうして他の惑星に住めるでしょう！ 人間は地球での生き方を学ぶ必要があるのです。今こそ私たちはどこかで竜巻か雷光で奮い立たされ、眼覚めて常識に戻るべき時です。人間はあまりに長い間、眠っていたのです。地球上で隣人と共に暮らせない人が他の惑星で暮らせるわけがありません！ もし私が一惑星の長であったとすれば、この地球で暮らせないといい人をそこへ行かせると思いませんか？ ノウ。

まずこの地球で同胞と共に生きることを学びなさい。人間対人間として生きることを学びなさい。みんながそこで生きているからです。あなた方や同胞や

創造物が、聖なる存在であることを知りなさい。なぜなら、創造主自身がそれらを創造したのであって、自分以外の他の物を創造するはずがないからです。

(訳注=万物は創造主そのものの現れという意味) 私たちが自分のエゴでもって創造物から作り出す物は、創造主の過失ではありません。私たちがフタ代わりにして覆っていたゴミを取り除きさえすれば、まだそこには真自我が存在するのです。

私たちが呼吸をしている空気は創造主の現れです。スタンダード石油会社または他の会社が空気を売っているではありません。それなくして生きてはいられない空気は、どこへ行っても無料です。後になってアダムと呼ばれた像、すなわち粘土の像に最初の息が吹き込まれたときから無料だったのです。それ

は創造主の口から出て、その像の鼻口へ吹き込まれました。それは今も人間の鼻口へ吹き込まれています。

次のような言葉が述べられているのを、あなた方はどう思いますか。

「地によって誓うな。それは父の踏み台であるから。そして天によって誓うな」

天空とは父の王座であるからです。あなた方が今住んでいる場所(地球)の中に、これ以上聖なる場所があるでしょうか？

これ以上聖なる場所は他の惑星にないのです！ ですから、あなた方が人間の住むように意図されたように生きることができないならば、他の如何なる場所(惑星)でも生きられないでしょう。

眼覚めようではありませんか。そして創造主が人間に(そうあるべきように)意図された、そのような人間に少なくともなるうではありませんか！ 万物について感覚的になるうではありませんか！

(『GAP ニュースレター』第60号より抜粋。転載許可取得済)

今年の総会の楽しみの一つに、田中義則氏の講演があった。

彼とは古い友人である。二人で仙台支部を設け、数年前までは二人で月例会を運営していた。上京して東京の人となったが、現在は本部月例会の司会をしている。

数日前まで「原稿がまだ出来てない」と嘆いていた人間とは思えない程堂々たる講演だった。特に後半の「許す」という話には感銘を受けた。

久保田会長の講演も相変わらず、たのしいものだった。聴く者に解り易い比喩に感心させ

1982年度 日本GAP総会報告

広がれ、この熱意!

られる。お二人の講演はニュースレターに詳しく掲載されるので、この辺にして――。

映画「十戒」は高名な作品である。私は初めて観た。UFO 出現シーンをストップモーションにすると聞いていたので安心して見たが、何かの都合でそれはやらず、不注意にも見逃してしまった。司会者は、ストップモーションを行うとは一切言わな

かったので、その時点で気付かなければならなかった。

「注意深く、というのはこの時思った私の戒めである。

総じて盛大な総会であった。夕食会は、なお盛大だった。会場に比べて参加者が多く、歩き回るのがに苦労した。

年々会員数は減少しているという。それでも今回の総会参加

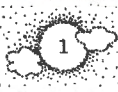
者は予想に反して多かった。それだけ熱心な人が増えているのか、その辺はわからない。

ただ、外部から見れば「変わっている人々」が、至って真面目に集っていることは分かる。そして、その眼にはほとんど、冷静で賢明な光が宿っていることも見逃せない。

私達は間違いなく地球で生きて、地球の運命をになっている。同時に宇宙の中で息すべく学んでいるのだ。「この輪よ、広がり」と私は心から念じた。

(笠原 記)

たいよう



子どもは私の教師だ!

船橋市

もつろ Joon

ているものは相当に奥深く、すばらしく輝くものであるという素直なる実感である。

仙台支部報編集部より「教育現場から」というテーマで原稿の依頼を受け、どんな内容になるかは自信はまるきし持てないが、この格調高き支部報の一角をお借りして、せいたくにも何回に渡るかわからずも連載として発表させて頂く好機を得た。何かの参考にして頂ければとてもうれしい。

と同時に私がしみじみと考えたのは、私はとりあえず教師なのだけれども、私にとって39名の子どもたちはそれぞれが私の教師である、というもので、このことは日々実感させられている。彼らが私に示してくれたことは数知れない。それは私が気づかぬままにやってくるが、私は今までに多くを教わった。心から感謝しているし、そのことを感じれば感じるほど子どもたちがかわいく思えてくる。

自然に恵まれたマンモス校

私が通学しているのは千葉県内の船橋市内にあるが、この船橋市もかなり大きな都市で、市内にも50を超える小学校がある。国鉄総武線沿線のいわゆる都市部にあたる学校や日本海岸沿部にある学校、そして虫や小鳥や怪獣はさすがに生息しないけれども、それほど田や畑などの自然環境に恵まれた中にある学校というように、多種多様な条件の学校が同じ市内に同居している。私の通い始めた学校はうれしきかな3番目の「大草原の大きな学校。なのである。この学校に今春より奇跡的に登校することになったが、この経緯(いきさつ)を述べればとても太っ腹がたるむほど笑えるほどにおもしろいが、もったいないので、

いや紙面に限りあるため今回は割愛することにし、次のチャンスに譲ることにしよう。

せんせいも子どもも1年生

どういう運命のご配慮かわからないけれども(こうした例はほとんどないらしいのだが)私は新採ながらも1年生を担当することになり、お互いわからぬ者同士、初心者マークを背にはって悪戦苦闘の日々が続いている。「これが本当に学校なのか!」と父母会の時に驚かれたほどに問題があったらしいのだ。私は「これでもマアまあよくなった方ですよ!」と軽く流したけれども、家宝よりも大切な娘・息子をこんなデタラメな新米教師に任せて、大失策だったという不安といらだちが相当にあった

みたいだ。でも「私はプロだ!」なんて偉ぶるのは10年早いので一応深く反省しているという表情はくすくすにいた。

子どもも同じ人間だ

そんなわけで私は39名の愛すべき子どもたちと運命的な出会いをし、毎日いろんなドラマを楽しませてもらっている。

そして非常に奇妙な感覚が会いいとも始まった。この世に偶然というものは無い、という考えを裏付けるかのように、ひとりひとりの存在がとても重く感じられ、俗に言う「初めてじゃないみたいだ」という感覚を持ったことがあった。これは同僚の先生方についても同じである。もうひとつは、地球上では私よりも年少で体も小さいがその子どもたちの内に秘められ

細かいエピソードは数え切れないほどあるが、これは次回にまわすことにし、最後にわがクラスの子どもの声を紹介して閉じたいと思う。

せんせいにおねがいがしたい。せんせい、やすみじかに、いっぱいあそんでね。せんせい、べんきょうするとき、にくらしくて(も)、もりしたくんたちに、あたまとか、をたたくんじゃないでしょ。

月例会案内

- ◎会場：仙台市「市民会館」会議室
 - ◎日時：毎月第4日曜日 1:10~4:20
 - ただし12月の月例会は、会場の都合により第3日曜日(19日)に変更。
 - ◎内容：久保田会長「生命の科学」講義録音テープ公開。テレパシー練習。座談会。
- ※12月はクリスマスパーティーを計画中。

編集後記

◎まず、編集後記ごときにこんなにもスペースを使うことをお許し下さい。

◎本号トップ記事のアダムスキー氏の講演録の全文は『GAP』第60~62号に掲載されています。本紙に抜粋された記事以外にも重要な内容が多く含まれていますので、再読をおすすめします。

◎本号より、本年3月まで久保田会長の助手をしておられた山口緑氏(現在、小学校教員)による連載物がスタートしました。「たいよう」というのは山口氏の出しておられる学級通信紙のタイトルで、私も拝読していましたが、愛読者も多いと本人は強調していましたが……。ともあれその文面からは生き生きとした児童と先生の様子がうかがわれ、それが本紙の記事でもおわかりいただけると思います/山口先生

の悪戦苦闘ぶりから、私たちも何か大切なものを教えられるのではないかと思います。今後の記事もお楽しみに。

◎第1面掲載の通り、今年も素晴らしい総会でした。北から南から、多数の出席者があり、会場は熱心なふんいきに包まれました。皆さんは総会を通じてどんなことを学ばれたでしょう。

◎本紙の「顔」である「草原」(笠原代表毎回執筆)のタイトルは、代表の好きな風景「春の草原」からとったものです。ご好評におこたえし、次号からはスペースを広げる予定です。

◎地球は確かに混乱に満ちていますが、私たちが生きているのも紛れもなく地球です。創造主が用意して下さったこの教室でのレッスンに、積極的に取り組んで行きましょう!

◎皆様のご意見・ご感想・ご希望をお寄せ下さい。(A)

草原

xxxxxxxxx 武蔵 xxxxxxxxxxxx 笠原弘可

彼はどういう訳か、突っけんどんだった。私は彼に、何か悪いことをしたろうか、言ったろうかと想いを巡らした/少々ことは善意に解釈し合える仲だと信じていた。それがどうした訳か、冷たい程に突っけんどんなのだ。私は不愉快になった。彼に対して私はそんな態度をとったことはないと自負していた。例えば忙しかろうと、気分が悪かりょうと、私は強いて明るく態度で接した。そうするのが私の主義でもあり、彼には特にそうしなかった。私は暗に彼をたしなめるような話をして別れた。私の心は晴れなかった/吉川英治の「宮本武蔵」を読んだ。武蔵は実在したが、小説はあくまでフィクションである。良き小説はフィクションながら読者にある影響を与える。親せきの家から冷たく、追いたてられるようにして出る武蔵。それでも彼は恨まず憎まず、孤高を行く身に誇りさえわき立たせる。もらった切りもちをほおぼり、天を仰ぎ感謝する/そこを読んだ時、私は思わずつぶやいた。「おれは甘えているなあ、他人にも・・・自分にも」と。